

広報さとる



発行日:2023年5月31日(NO.034) 発行所:トヨタ自動車労働組合
発行人:鬼頭圭介 編集人:井出さとる 印刷所:(株)トヨタエンタプライズ

政策要望の回答を 市長から受け取りました

他労組と連帯した活動は、裾野市をより良くするために必要な重要な取り組みです。労働組合の組合員1人ひとりが「良き市民」として、自治体や地域に根差し、その発展に貢献する。これが長年にわたって私たち先輩が大切に築き上げられてきた「トヨタらしい」地域との向き合い方だと思います。

「町いちばん」と、自治体や地域、他労組の皆さまなどの「社会の皆さま」に受け入れられるためには、私たちの関わりを愚直に「アウトリーチ」し続けることが必要だということだと思います。

Mobility for All(全ての人に移動の自由



を)」という言葉には、私たちが必要とされる社会との関わり方の姿勢を示唆していると思います。

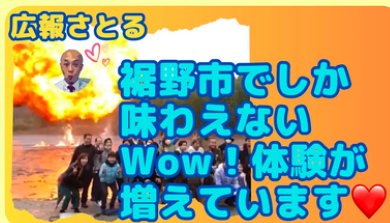
社会の皆さまとの連帯した活動を大切にして、裾野市長から頂いた回答に対し、裾野市での生活の更なるスパイラルアップが実現できるよう、力を尽くしてまいります。



子ども家庭総合支援拠点、できたよ

福祉保健会館の2階が「裾野市子ども家庭総合支援拠点」としてリノベーションされ、子育て中の方々が子どもの成長や家庭の問題について相談できたり、子どもと一緒に過ごせる場所ができました。情報提供、遊びや交流、講座やイベントなど、子育てに役立つ支援が行われることが期待されます。

[続きを見る](#)



裾野市でしか味わえないWow!体験が増えています

裾野市では、「スポーツツーリズム」と「フィルムコミッション」を活かした魅力的な観光地へと進化しています。市長は、これまで多くのバラエティ番組やドラマの撮影が行われた「ロケの聖地」としての立ち位置を確立し、「爆破ツーリズム」を推進する意欲を示しています。今後も裾野市の進化が期待されます。

[続きを見る](#)



新東名高速道路のインターチェンジ 設置検討に着手！

新東名高速道路が通過する静岡県内13市町のうち、アクセスができなかったのは裾野市のみでした。インターチェンジ設置には、確認から実施計画の策定、そして連結許可まで、いくつもの段階を経る必要があります。未来の発展のためにも、頑張してほしいと思います。

[続きを見る](#)



にぎわい起点は、コンセプトが突き 抜けていた！

R足柄駅は2020年6月下旬にオープンし、「交流センター」として隈研吾氏により木材を多く使った素敵な駅舎となりました。岩波駅は次世代技術の実証都市「Woven City」の玄関口になると同時に、市北部の拠点として交通結節点の機能強化と生活利便性の向上を目指し、活性化する必要があります。

[続きを見る](#)



岩波駅周辺整備で変わる！にぎわいの 創出

裾野市は「Woven City」の隣接駅のJR岩波駅周辺整備を進めています。短期整備と中長期整備の2段階に分けて再開発を行い、短期整備では国道246号の裾野入口インター上を貫通歩道橋の架け替えや拡幅を計画し、並べる歩道橋の間は公園や緑地を整備して、にぎわいの創造を目指しています。

[続きを見る](#)

JUNKを手直しする 楽しさ!ものづくりを実感!

Ya●●o!オークションでよく「ジャンク品」なるものを購入して、無心になって直すことが趣味?となっています。特に業務用の機械を直すことに夢中になっています。

分解しようとする、ことごとくネジが潰れていてタップを立て直したり、Mono●aroで部品を調達したりして。どうやったら直せるか?なんて考えてながら作業していると、あっという間に夜中になりました。

家族は呆れ顔で「放って」おいてくれるので、良い息抜きになっています。直した機械で、子どもたちの笑顔が見られるのが生き甲斐になっています!

職場トークを開催させていただきます!

コロナ禍によって、組合員の皆さまと直接お会いする機会が本当に減りました。職場トークで頂く声は、とても興味深く、私は職場トークを通じて、新しいアイデ

アや視点を得ることができます。職場トークを通じて学んだことを生かし、より良い活動を展開していきたいと思っています。どうかよろしくお願いします!